

---

第6回三朝町議会定例会会議録（第2日）

令和7年12月10日（水曜日）

---

議事日程

令和7年12月10日 午前10時開議

日程第1 一般質問

河村明浩 議員  
伊藤博文 議員  
森 貴美子 議員  
吉村美穂子 議員  
小椋泰志 議員  
山口 博 議員

---

本日の会議に付した事件

日程第1 一般質問

河村明浩 議員  
伊藤博文 議員  
森 貴美子 議員  
吉村美穂子 議員  
小椋泰志 議員  
山口 博 議員

---

出席議員（10名）

|          |          |
|----------|----------|
| 1番 伊藤博文  | 2番 石谷 正  |
| 3番 森 貴美子 | 4番 小椋泰志  |
| 5番 河村明浩  | 6番 吉村美穂子 |
| 7番 山口 博  | 8番 藤井克孝  |
| 9番 遠藤勝太郎 | 10番 松原成利 |

---

欠席議員（なし）

---

欠 員（なし）

---

事務局出席職員職氏名

事務局長 ..... 藤 井 和 正      主事 ..... 菅 田 知 佳

---

説明のため出席した者の職氏名

町長 ..... 松 浦 弘 幸      副町長 ..... 赤 坂 英 樹  
教育長 ..... 西 田 寛 司      総務課長 ..... 矢 吹 和 美  
地域振興監 ..... 藤 井 紀 好      会計管理者 ..... 毛 利 純  
財政課長 ..... 吉 田 栄 治      町民課長 ..... 山 口 良 輔  
建設水道課長 ..... 松 村 倫 明      福祉課長 ..... 岩 山 裕 和  
観光交流課長 ..... 竹 本 将 樹      農林課長 ..... 山 中 恵 子  
農業委員会事務局長 ..... 山 本 達 哉      総務課参事 ..... 山 口 圭 一  
企画健康課参事 ..... 米 田 真      建設水道課参事 ..... 蔵 増 繁 幸  
教育総務課長 ..... 角 田 正 紀      社会教育課長 ..... 谷 川 篤 志  
図書館長 ..... 安 田 寛

---

午前9時56分開議

○議長（松原 成利君） おはようございます。

少し早いですが、ただいまの出席議員数は10名であります。定足数に達しておりますので、直ちに本日の会議を開きます。

本日届出のあった欠席者は、議員、当局ともございません。以上、報告いたします。

本日の議事日程は、お手元に配付しているとおりであります。

---

日程第1 一般質問

○議長（松原 成利君） 日程第1、一般質問を行います。

一般質問は、6名の方から通告を受けておりますので、日程の順序により、これを許します。

初めに、5番、河村明浩議員の身体障がい者への支援と情報保障の充実についての一般質問を

許します。

河村明浩議員。

○議員（5番 河村 明浩君） 身体障がい者への支援と情報保障の充実について、町長に質問をさせていただきます。

本町では、三朝町障がい者計画を策定し、誰もが安心して暮らせる「人にやさしい町づくり」を目指しています。障害には、視覚、肢体、知的、発達、精神などがあり、障害者ごとの支援を図っておられますが、私は今回、聴覚障害者の支援について質問をさせていただきます。

先月、デフリンピックが開催され、多くの日本人選手が活躍されました。障害をはねのけ、多くの方々に感動を与えてくださいました。しかし、日常生活の中で情報が聞こえることを前提に進んでしまう場面は少なくありません。特に聴覚に障害を持つ方や、病気、加齢によって聞こえづらくなった方々にとって、必要な情報が十分に届かないことは、生活の質に直結する重要な課題であると思います。このような状況を踏まえ、まず初めに、本町における手話通訳者や要約筆記者の配置状況、派遣実績、そして現状の課題についてどのように把握されているか、支援体制の現状と今後の見通しについてお伺いいたします。

私は、庁舎には耳マークや筆談マークを掲示して対応されていますが、手話奉仕員を養成するための講座を開設し、手話に対する理解を広めることが必要であると思いますが、町長のお考えをお伺いいたします。

○議長（松原 成利君） 答弁、松浦町長。

○町長（松浦 弘幸君） おはようございます。河村議員の身体障がい者への支援と情報保障の充実についての質問にお答えをいたします。

まず、本町において、聞こえない、そして聞こえにくい方などの状況を説明をさせていただきたいと思いますが、聴覚障害をお持ちの身体障害者手帳の所有者は13名ございます。平均年齢は88歳ということで、手帳交付時の平均年齢は73歳というふうなことでございます。

手話通訳者や要約筆記者の配置の状況についてでありますけど、中部1市4町共同で、公益社団法人鳥取県聴覚障害者協会に意思疎通支援事業という形で委託実施をしております。大会、会議等で必要がある場合は、手話通訳者等を派遣をしていただくという体制で進んできております。障害認定時の年齢が高いということもあって、それから見ると、中途失聴の方が大半ということもあります。住民に対しての手話の通訳者や要約筆記者の派遣実績は、近年はございません。ただ、行事の規模や参加の状況、要請に応じては、適宜対応できる体制は取っております。過去には本町の行事でも、そういった手話通訳や要約筆記を行った実績もございます。

次に、手話奉仕員を養成するための講座を開設をして、手話に対する理解を広めることが必要であるというふうな御提案をいただきました。これにつきましても、委託事業の中で手話の奉仕員の養成の研修だとか、現任研修も毎年実施をしていただいております、そういったことから併せて手話の普及啓発にも努めております。

このほかにも、障害認定にはならず、いわゆる加齢によって聞こえづらい方に対しましては、一定の条件はありますが、補聴器の購入に対する助成も行っております。

いずれにしても、年齢や障害の有無にかかわらず、誰もがひとしく必要な情報を得るための体制づくり等々については、継続して取り組んでまいります。

以上、答弁とさせていただきます。

○議長（松原 成利君） 河村議員。

○議員（5番 河村 明浩君） ありがとうございます。手話について私も調べてみまして、鳥取県も手話言語条例を全国で最初に制定されておられまして、手話が言語であるという認識に基づいて手話の普及を推進されておられます。

それと、今年の9月には、全国高校生手話パフォーマンス甲子園が第12回を迎えて、倉吉の未来中心で開催されておられて、秋篠宮家の次女、佳子様も毎年のように御臨席されるなど、鳥取県は手話に対する取組が広がっていると感じております。

本町の聴覚の障害については、先ほど町長からありましたように、13名ということございまして、13名も高齢の方が中心のようございしますが、少ないのか、ということもありますけれど、もっと手話の普及に向けた施策を推進していただきたいという思いで今回質問をさせていただいたわけでございます。

それで、手話の奉仕員の増員について提案をさせていただきましたが、この手話の奉仕員の資格を取得するためには、これは市町村が養成講座を行って、それに修了をされると登録できるということになっているようでして、先日、県の担当課にお聞きしましたら、県内には116名の方が手話奉仕員として登録されておられるようございまして。それで、三朝町の人数もお聞きしたんですけど、これについてはちょっと分からないということございまして、ここでちょっと先ほどの中部の手話通訳者とかがありましたけど、町内の方で、こういう手話通訳者とか、手話奉仕員の資格を持っておられる方は何人ぐらいございましてか。

○議長（松原 成利君） 松浦町長。

○町長（松浦 弘幸君） 県のほうで調べられて分からないということでしたら、町としても分からないというのが実態でございますけど、現実として、これまでデフリンピックだとか、そうい

う形でいろんな行事の中だとか、これまでの中部の会の中で、町民の方も手話通訳をされてる方がおられますので、数名だとは思いますが、おられるとは思っています。

○議長（松原 成利君） 河村議員。

○議員（5番 河村 明浩君） ぜひ、この市町村が講座を開けば登録できるというシステムのようなので、講座のほうもぜひ行っていただきたいというふうに思っております。

それでは、次に、聴覚障害者への情報の保障についてでございますけれど、特に防災とか緊急時、こういう場合に、情報の伝達がスムーズにできて保障ができるようにしなければいけないと思っております。避難勧告等に対する伝達が障害者の方に伝わるようにするために、個別避難計画などを定めておられると思いますが、どういうふうに対応されておられるのか、お伺いいたします。

○議長（松原 成利君） 松浦町長。

○町長（松浦 弘幸君） 個別避難計画、あるいは、そこに関係される民生委員さんの皆さんに御協力をお願いをしているというふうに認識をしておりますが、具体例があれば、担当参事のほうから説明をさせます。

○議長（松原 成利君） 山口総務課参事。

○総務課参事（山口 圭一君） 具体例ということではありますが、今のところ具体例はございません。しかし、対応としましては、先ほど町長も言われましたように、個別避難計画の中であったり、民生委員さんであったり、各集落等、そういった方、御協力いただくということで対応していくということになるかと思っております。

○議長（松原 成利君） 河村議員。

○議員（5番 河村 明浩君） よろしくお願ひしたいと思います。

それでは、最後になりますけど、本町は、本当美しい自然と温かい地域文化を持つ町だと私は思っております。その魅力をさらに高めていくためには、障害のあるなしにかかわらず、全ての町民の方が安心して暮らせる優しい町であることが欠かせないと思っております。三朝町障がい者計画の施策も、私、拝見しましたが、この施策がさらにさらに推進されることを期待しております。

以上で終わります。ありがとうございました。

○議長（松原 成利君） 答弁はいいですか。

○議員（5番 河村 明浩君） いいです。

○議長（松原 成利君） 以上で身体障がい者への支援と情報保障の充実についての一般質問を終

わかります。

続いて、若い世代が活動する仕組みづくりについての一般質問を許します。

河村明浩議員。

○議員（5番 河村 明浩君） 若い世代が活動する仕組みづくりについて、町長に質問させていただきます。

本町では、少子高齢化が進む中、地域行事、地域役員、伝統文化などの担い手不足が深刻化しているのではないのでしょうか。特に30代までの若い世代の参加が減少しており、地域の未来を考えると大きな課題であると思います。町長は、若者の地域参加の取組をどのように把握し、課題をどのように分析しておられるのか、お伺いします。

私の提案としては、若者の交流ラウンジを月1回行い、雑談、困り事相談、趣味共有、ミニ講座など、心理的にもハードルの低い施策で参加しやすいものを実施してはどうでしょうか。また、若者が地域でやりたいことを聞くためのアンケート調査をしたり、町内の若者が行う活動へのきっかけとなるような助成金など、若者の後押しとなるような取組が必要だと考えますが、町長のお考えをお伺いいたします。

○議長（松原 成利君） 松浦町長。

○町長（松浦 弘幸君） 続けて、河村議員の若い世代が活動する仕組みづくりについての御質問にお答えをいたします。

議員からは、現状認識と課題をどう分析しているのかという御質問をいただきました。少子高齢化が進行して、地域の行事や、そして地域や集落の役員さん、また、いわゆる伝統文化の担い手の皆さんが、そういった方が不足をしている、そういったことが深刻化しているということは認識をしているところです。中でも30代前、過ぎた方、そういった若い人の参加が少なくなっているんじゃないかなというふうなことも感じております。若い世代の参加が減少している、なぜかということを考えてみますと、仕事であったり、個人の楽しみも多様化をしておいて、そして、子育て等に関わる時間も大切にしておられることがあると思いますし、地域での活動の情報が届きにくいといったこともあって、必要性だとか、魅力ということが十分に伝わっていないといった情報不足ということもあると思います。若い人の興味だとか、関心事は様々であると思います。それらが地域の行事だとかに比べてみると、そちらのほうが大切にされているのではないかなというふうなことも思うところでございます。

議員からは、若者の交流ラウンジについての提案もいただいております。若い人が集まれる場所というところは、非常に大変有効な手段ではないかなということには思っておりますし、今、

旧三朝小学校を活用しながら、いろんな形で考えてきておりますけど、例えて言えば、そういうところに一室であっても、ふらっと立ち寄って交流ができる、そういった少し緩いような空間があってもいいのではないかなというふうに思ったりして、それが最終的に居場所であったり活動の場所だというふうに発展してくることも考えるところでございます。そういうふうに自らが集まって交流をする、そういう場所があって、その後、彼らは何を必要としているかということ、そういったことに関わっていきながら対応していくのが私はいいじゃないかなというふうに思っております。

提案にあったアンケートにつきましては、大変有効な手段だというふうに思っておりますし、これまでも二十歳を祝う会だとかでも、インターネットを活用したアンケートを実施をしておりますし、ふるさとレターLINEへの登録を促している、そういったこともしております。

次期総合計画を2年後以降に策定をしていくわけでありますので、そういったことに関しても、若い人の意識調査というのは非常に大事だというふうに思っておりますので、これから機会を捉えながら、そういうことも取り組んでいきたいというふうに思っておりますし、ただ単純な実態調査というわけではなくって、少しニーズを把握するというふうなことも加えて、その他どういう調査のやり方があるかというのは、これから考えていく必要があるかなと思っております。

最後に、助成金の制度についてでございますけど、早々から準備をするということではなくって、彼らの活動が生まれた段階で、私は支援を考えればいいというふうに思っております。それまでは既存の地域づくりに関する制度がありますので、そういったことも活用しながら、そういったことで若い人に求められる支援を、その時代、そのときに合ったものを考えていくほうがいいじゃないかなというふうなことを思っております。

若い世代の皆さんは、大変重要な担い手でありますので、地域の活動等に関して、やはり、自らが楽しんで、そして参加したい、やってみたいというふうな、そういったような環境づくりができるように、仕組みも含めて考えていきたいと思えます。

以上、答弁といたします。

○議長（松原 成利君） 河村議員。

○議員（5番 河村 明浩君） 私も年を取ってきましたので、若い力が本当に必要だなというふうに日頃から感じておるところでございます。若者が集まって元気に活動している姿を見れば、三朝町民の方も、何か未来が開けるような感じを受けますので、ということで、今回質問をさせていただきます。

それで、町長からもありましたけど、若者の地域参加が減っている背景には、私は、仕事や家

庭の事情とか価値観の変化などの要因があると思います。しかし、三朝町の現状を見ると、若者が地域や仲間と自然につながる場が十分に用意されていないのも原因の一つだと思います。私も提案しようと思いましたが、町長のほうから旧三朝小学校の1室を、そういう若者が集まる場所にひとつ設けるような話もいただきました。私もそういうふうに思いまして、若者が気軽に集まれる居場所ですね、交流拠点として、若者が何となく気軽に集まれるところがほんに必要じゃないかと思っておりますので、これについては、ぜひ、そういう青年の館みたいなものを造っていただければというふうに思っております。

あと、アンケート調査と言いましたけど、このアンケート調査、内容が単純に意向で要望みたいな聞くだけではいけませんので、ある程度できるようなことについて提案をして、その思いを聞いていくというような内容もあるとは思っています。補助金にしても、確かにそういう何かが集まって組織ができて、本当に何かをしたい、その内容にもよりますので、補助金を単に出すんじゃなくて、やはり、若者が集まって、考えて、三朝町のためになるようなことがあれば、ぜひどんどん補助金のほうは出していけるようなことになればなと思っております。

この質問につきましては、私も町長からいただきましたので、追加の質問をすることはございません。

以上で終わります。

○議長（松原 成利君） 以上で河村明浩議員の若い世代が活動をする仕組みづくりについての一般質問を終わります。

.....  
○議長（松原 成利君） 次に、1番、伊藤博文議員の町を離れた若者のUターン施策についての一般質問を許します。

伊藤博文議員。

○議員（1番 伊藤 博文君） 町を離れた若者のUターン施策について、町長に御質問させていただきます。

本町では毎年約100名程度の人口が減少しています。一つの原因として、三朝町を離れた若者が戻ってこないことが問題だと考えられます。若者が進学や就職で町を去ることは、ある意味で自然な流れですので、仕方のないことです。若者が町を出ていくことを止めることは難しいと考えられますが、町と若者がつながり続けることは難しくないと考えます。例えば町外に進んだ高校生、大学生に対して、町の最新情報をSNSでの発信をすることにより、町と若者がつながり続けることができると考えられます。

また、高校生との連携についても重要と考えられます。本町には高校がないため、どうしても町と高校生の関わりは薄くなってしまいます。若者が町を出るか残るかを決めるのは、町の魅力だけではなく、若者自身の町との関わり度合いが大きく影響されると思われます。高校生が地域プロジェクトに参加できる仕組み、町役場との協働の場、議会との意見交換など、高校生が町とのつながり続ける場をつくることにより、将来の人口還流を生むと考えられます。

町の現状と今後の取組について、町長にお伺いいたします。

○議長（松原 成利君） 答弁、松浦町長。

○町長（松浦 弘幸君） 伊藤議員の町を離れた若者のUターン施策についての御質問にお答えをいたします。

町外に進んだ高校生、大学生に対し、町の最新情報をSNSで発信することにより、町と若者がつながり続けることができるとの御意見がありました。本町では現在、町外への進学、そして就職をされた若者との継続的な関係を維持をするために、若者つながりづくり事業というのを実施しております。平成26年度からは、ふるさとレターとして広報紙や求人情報を郵送をしたりして、月の情報といった形で届けをしておりますし、近年は、ふるさとレターLINEに移行をしております。現在での登録者数は45名でありまして、これはさっきも申し上げましたけど、二十歳を祝う会等で活用するなどの登録促進を図ってきております。

次に、高校生が地域プロジェクトに参加できる仕組みをつくることで、将来の人口還流を生むのではないかと御提案をいただきました。

現状の取組としては、倉吉西高の探求活動という授業がありまして、令和6年度から三朝町の空き家利用をテーマにした連携があります。例としては、空き家を会場にして、昨年だったと思います。私も行きましたけど、蚤の市とパン屋さん、今年は保護猫譲渡会、そういった活動を町内でしていただいております。また、不用家財をリサイクルをして椅子を製作する取組もあります。こういったことが地域課題の解決に関わっていただく、町を知っていただく、一緒になって取り組んでいくこと、よい機会だというふうに思っております。

これまでも、西高以外に倉吉総合産業高校とも連携をして、神倉大豆を使った商品開発にも取り組んでまいっております。ロールケーキなどのスイーツが商品化をされて、販売をされて、本当に地元産品の魅力の情報発信につながってきていると思っております。また、若い人との連携として、大学と連携をした取組も行っております。鳥取短期大学とは、観光分野を中心にして、三朝温泉街のフィールド調査、そしてオリジナルマップの作成を継続をしております。鳥取大学では三徳レンジャーが三徳地区を拠点にして、米の生産から販売までを実践をしております。

人手不足、また町の資源の有効利用という、そういった側面に加えて、地域のイベント、そういったところにも積極的に参加をしていただいたり、あるいは高齢者のボランティア活動や地域の農村の活性化の活動にも、これまでも幾度か参加をしていただいたことがあったように思っております。

今後の取組でございますけど、今取り組んでおります若者つながりづくり事業や、そして教育機関との連携については、継続的な関係を維持をするということには効果があるというふうに思っておりますので、引き続き継続、そして拡充をしていきたいと思っております。

また、本町に関心を持っていただける幅広い若い方が町と関わるができるように、ほかの高校、そして大学等でも、新たな連携の機会も探していきたいというふうに思っております。

さらには、11月から任用しました移住定住と空き家対策に関する地域プロジェクトマネージャーとも連携をしながら、いろんな仕組みづくりを進めて、将来的なUターンや関係人口の拡大につなげたいというふうに考えております。

引き続き、町内外におられる若い人が、三朝町とのつながりを続けたいと思える環境づくりに取り組んでまいりますので、皆さんにいろんな面で御理解をいただくように努力をしてみたいと思います。

以上、答弁といたします。

○議長（松原 成利君） 伊藤議員。

○議員（1番 伊藤 博文君） ありがとうございます。ちょっと御質問をさせていただきたいんですが、ふるさとレターLINEということで、取組をしてるということなんですが、この発信頻度っていうのはどれぐらいで発信されてるのでしょうか。

町長をお願いします。

○議長（松原 成利君） 松浦町長。

○町長（松浦 弘幸君） 担当しております参事のほうから答弁をさせます。

○議長（松原 成利君） 米田企画健康課参事。

○企画健康課参事（米田 真君） ふるさとレターLINEですけども、基本的にはふるさとレターの郵送の分とタイミングを合わせて、毎月1回、広報みささが出た後のタイミングで発信をしております。あわせてその月のイベント情報、お知らせなどを併せてお伝えしております。以上です。

○議長（松原 成利君） 伊藤議員。

○議員（1番 伊藤 博文君） 月に1回ということなんで安心しました。何か半年に1回とかだ

ったらちょっと困るなと思ってたんですけども、情報発信というのは、若者と緩くつながるって  
いうふうな感じで、一方的でもいいと思います。がちがちにつながっちゃうと、高校生とかも実  
際に出てきたものの、嫌がるところありますんで、流しっ放しで全然いいと思います。何か起こっ  
たときに見ていただくっていうふうな感じでいいかと思います。

先ほどの町長の御回答の中に、高校生とのつながりも重要だよってということでお話をいただき  
ました。倉吉西高の生徒との空き家を活用したイベントとかを、元地域おこし協力隊の森田さん  
がやっていたことも承知しております。倉吉総産の商品開発についても、すみません、私ごとで  
申し訳ございませんが、3年間いろんな商品の開発を高校生とさせていただきました。よくある  
話なんですけど、地域おこし協力隊が卒業してしまうと、このつながりがなくなるっていう、結構  
そういったことが途絶える傾向があるっていうのが、これは全国的な話なんですけど、あります。  
ぜひ、つながりを続けていただきたいということで、町として、地域おこし協力隊じゃなくて、  
誰か違う方にその事業を続けてやっていただく何か仕組みとかっていうのは、今現状あるんでし  
ょうか。

町長にお伺いします。

○議長（松原 成利君） 松浦町長。

○町長（松浦 弘幸君） まず、基本的に地域おこし協力隊を募集するときには、任期が3年あ  
って、それが終わってからずっと三朝町でおってくださいという、そういう義務感を持って募集を  
かけているということではないというのが私の考えでございます。その中で、地域の活動をし  
ながら、またそれを延長して地域の中で事業を起こしたい、活動したいという方が生まれてきた  
場合には、全面的に町として協力をしながら、どういう形でその事業が展開できるか。町だけ  
ではなくって、例えて言えば、商工会の部分の起業支援だとか、創業支援だとか、そういうこと  
もできないかということも常に考えておりますので、そういう皆さんとは、事業をするかしないか  
は別として、将来的にいわゆる関係人口として関わることも含めて、そういう面での活動実績を  
踏まえたつながりというのは、これからも取り組んでいきたいというふうに思っています。

○議長（松原 成利君） 伊藤議員。

○議員（1番 伊藤 博文君） ありがとうございます。継続して事業をするっていうことに関し  
ては、先ほど神倉大豆に関しては、私が引き継いでやろうかなというふうに考えておりますので、  
引き続き町の御支援のほうをよろしく申し上げます。

あとなんですけど、二十歳を祝う会っていうのが開催されるということで、出席者の方とちょっ  
とお話をさせてもらった中で、つながりという意味で、LINEグループが二十歳の祝う会って

いうのがありまして、その中で、今回対象が71名ということでお伺いしまして、56名がそのLINEグループに入っつながっているという現状を聞きました。三朝町は中学校が1校しかないから非常につながりやすいんだというふうなことも聞きまして、すごく何か高校出ても、ああ、つながってくれてるんだというふうな安心感を得られました。

いろんなつながりを持つことによって町に戻ってきたいというふうな若者っていうのはたくさんいるっていうことは分かっておりますし、仕事、生活、コミュニティーの3つの不安を解消できるかどうか若者が戻ってくる鍵だというふうに思っております。戻ってよかったと思われるような地域になるように、Uターンの支援、情報発信の強化を求めますので、ぜひよろしくお願いいたします。

以上で終わります。

○議長（松原 成利君） 伊藤議員、この場での質問なんですが、お願い事っていうのは避けていただくようにしておりますので、先ほど2点ほどありましたが、その部分については、このたびはちょっと提案ではありませんので、そういったことで不適切ということでお願いをいたします。

○議員（1番 伊藤 博文君） 大変失礼いたしました。

○議長（松原 成利君） 以上で伊藤博文議員の町を離れた若者のUターン施策についての一般質問を終わります。

○議員（1番 伊藤 博文君） ありがとうございます。

○議長（松原 成利君） 次に、3番、森貴美子議員の交通難民の高齢者に送迎サポートをの一般質問を許します。

森貴美子議員。

○議員（3番 森 貴美子君） 交通難民の高齢者に送迎サポートをっていう内容で、町長にお尋ねいたします。

ひとり暮らしの高齢者の方々の多くは、ふだんはバスを利用されていらっしゃる。しかし、バスの本数が少なく、通勤や通学の行き帰りの時間帯は集中してありますが、昼間に用事を済ませたときなど、自宅までの帰りの便がないため、何時間も時間を潰したりしているそうです。

また、病院に行ったとしてもバスの便がないため、次に行きたいところにスムーズに行けず、時にはタクシーを使ったりしているそうです。時間的にも金銭的にもかなり負担がかかっているようでした。

何とか解決する方法はないものかと事例を調べてみました。まず、1つ目は、智頭町のAI乗

合タクシーのりりんについて智頭町役場でお話を伺いました。町営バスを委託していたバス事業者から乗車状況や運営側の担い手不足の観点により、5年後、10年後も現在の体制を提供できるか不明である。運転手の平均年齢が60歳を超えているとの見解が打ち出されたそうです。

また、タクシー事業者からは、利用者のほとんどは町が施策として実施しているタクシー助成の対象者で、運行コストに見合った収益が出ていないとして、令和4年度をもって撤退の意向が示されました。

以上のことから、町営バス、タクシーに代わる新たな公共交通の検討が必要となりました。智頭町が目指した姿は、持続可能な交通体制の創成と智頭町の特徴である住民自治を存分に発揮したいということでした。そのため、共助交通の検討が開始され、稼働へとつながったそうです。智頭町内には76か所のバス停がありましたが、AI乗合タクシーのりりんは、272か所の乗降ポイントへと細かく設置されたそうです。

利用者さんからは、町営バス時代は路線と路線を乗り継いでいたが、ドア・ツー・ドアに近い形になり、移動の負担が軽減された、最寄りのバス停が遠かったが、近くに乗降ポイントがあるため、外に出る機会が増えた、希望の時間に近い時間で予約できるため、待ち時間が減ったなど、喜びの声が上がっているそうです。

AI乗合タクシーの運転手は、地域住民がドライバーとして雇用され、自家用車で予約されたお客様を運びます。ドライバーの皆さんからは、移動に困っている近所の人を助けられる、定年退職後でも地元で無理なく働ける、地域のために働いているとの声があり、目に見える形で地域貢献ができることで、やりがいにつながっているそうです。

1乗車当たり500円、乗合時は400円ほか、割引制度もあります。

智頭町の取組は、未来の三朝町の交通事情にも共通点があるのではないかと、今後、本町にも導入すべきと思いますが、智頭町のAI乗合タクシーについて、町長の御意見をお聞かせください。

2つ目は、山梨県北杜市のボランティア団体「ひげじいカフェ&送迎」の取組についてです。

高齢者の通院や買物する際の移動支援に取り組んでいます。団体は、送迎に加え、市の補助金制度を活用し、送迎前後の車の乗り降りや通院、買物を手助けする活動もしています。介護事業訪問型サービスDに分類されるもので、市内では唯一の活動となっています。1乗車につき500円です。

同様に、訪問型サービスDの取組を実施している茨城県那珂市では、訪問型サービスDの事業を実施する事業者も募集しています。

募集対象事業者には、自治会や地区まちづくり委員会などの住民組織、ボランティア団体や特定

非営利活動法人、社会福祉法人などです。利用料1回100円と燃料費です。

以前は、三朝町でも社会福祉協議会が通院や日常の買物の付添いの支援をされていたと思いますが、介護保険が導入されてから買物支援はされていないそうです。今後、町民の中から、訪問型サービスDの活動をされる団体を募集したり、自動車学校でドライバーとなる交通空白地有償運送運転者講習を受ける人を増やし、育てることは大切ではないかと思います。

高齢者の送迎サポートについて、町長のお考えをお聞かせください。

○議長（松原 成利君） 答弁、松浦町長。

○町長（松浦 弘幸君） 森議員の交通難民の高齢者に送迎サポートをの御質問にお答えをいたします。

議員からは、高齢者の日中の移動手段の一つとして、智頭町のAI乗合タクシーを参考にしてはとの御質問をいただきました。AIオンデマンド交通は、利用者の予約に応じて、AIがリアルタイムで最適なルート进行を計算をして走行するサービスで、従来の時刻表に基づくルートの運行とは異なっておりまして、乗りたいときに呼べる仕組みということ、従来の公共交通とタクシーの中間のサービスだというふうに認識をしております。今回御質問をいただきました智頭町のAI乗合タクシーのりりんについてでございますけど、さっきも言われましたが、町営バスの経営が見通しが大変だということで廃止をして、タクシー会社の撤退後の町内の移動手段として、関係団体から成る智頭町共助交通運営協議会が、令和5年度から取り組まれているものでございまして、この運営協議会というのが、町と観光協会と各地区の振興協議会、そしてシルバー人材センターだということでございます。

その取組をちょっと調べてみると、利用者は事前登録制ということで、令和7年時点で千五百八十数名ということだそうです。それで、専用端末か電話で予約をして、その登録されたポイントまで送迎をするということと、利用料金は回数券か定期で決済をするという仕組みだというふうに伺っております。

高齢者の皆さんにとっては、いわゆる乗降スポットも増えて、言われましたけど、ドア・ツー・ドアに近い形になって、本当に利便性が図られるメリットがあるというふうに思います。智頭もそうですけど、三朝もそうなんですけど、各地域の谷ごとに分かれておりまして、智頭の場合は、いわゆるJRの智頭駅が全てのスタート地点になってる、あそこが全てのポイントになるので、ちょっと智頭と三朝の交通環境というのは違う面があります。そういった中でも、よくこれまでの町営バスの取組等々の経過、歴史というか、苦勞からこういう形を生んでこられたのかなというふうに私も思っております。非常に先進的なことだというふうに思っておりますが、

一方で、A Iを導入するとどうしても人口に見合う財政的にどうかなというのもありまして、システムの構築だとか、運行事業を委託をする、そしてA Iに関わる費用だとか、そういった課題もあったり、それから、利用の面ではちょっとよく分かりませんが、ある面で時間帯が集中をして、そこにそれ以外の時間帯が空いてしまったりだとか、そういった不確定な要素があたりをして、安定的な運用を図る上では、そういったことをある程度平準化をしていくということも課題であるというふうに聞いております。

本町の場合は、路線バスとサンサンバスとタクシーの利用が可能な中で、新たなシステムを導入するかというのは、非常に慎重な検討が必要だというふうに思います。A Iオンデマンド交通の取組というのは、今後の公共交通の可能性の一つとして研究を進めていって、公共交通、生活交通を確保していく必要があるというふうに思っておりますし、先般、中国運輸局で広島に行ったときにお話をしたときも、車のシェアリングといいますが、そういったことができないのかなというふうな国が進めておられる提案も、提案というか、お話を聞いてきたわけで、非常に公共交通をどういうふうにその地域にあって確保するというのは、本当に大きなハードルがあるというふうに思っておりますし、一番大事なのは、路線バスを廃止をしてきて町営バスに移したときに、路線バスに戻るということはもうできない。智頭のように町営バスを廃止してきたこういった形の、いわゆる過疎地有償運送ではないけど、地域住民で動かす交通体系に来たときには、そこからまた戻すことはできないです。だから、そこをよっぽど慎重に考えないと、町にとって新たなことを導入していくだけでは、かえって、何ていうか、便利が悪くなったり、公共交通がなくなるという危険、今の制度ですよ、今の制度の中で危険があるということは十分認識をしているというふうに思っております。

次に、議員からは、高齢者の移動支援策の一つとして、住民互助を基本とした介護事業の訪問型サービスDという取組を進め、高齢者のサポートをしてはどうかとの御質問もいただきました。

介護事業における訪問型サービスは、介護保険法に規定する介護予防・日常生活支援事業の一部で、訪問型サービスDは、介護予防・生活支援サービス事業と一体的に行う移動支援で、主にボランティアが中心となって外出時に移送前後の補助を行うサービスであります。このサービスは担い手として、住民の有償ボランティアの関係が必要となってきますので、やはり、実施を考えたときには、担い手をどうするかという、そういった人材の確保が課題であるというふうに思っております。

近年の就労を取り巻く環境として、定年が65歳まで延長されたということがありまして、いわゆる退職後に働いていただける人材がそれだけ減少しているというふうなことも、これに限ら

ず課題だというのが私たちの大きな今の課題の一つでございます。公共交通の確保というのは、本当に重要な施策だというふうに感じておりますので、こういった御提案も参考にさせていただきながら、やはり町として必要な調査を聴き取りを行って、費用対効果、既存の移動手段だとか、公共交通機関との調整を図っていく、そういった確保に努めていきたいというふうに思っております。やはり、そういう場に移行する場合の前提として、よく皆さんが取り入れられてるんですけど、実証運行という調査事業を入れることによって、それを次に向かえるかどうかという判断をしていくやり方が、ある面で一番いいやり方だというふうには、経費はちょっとかかりますけど、思っておりますので、そういったことも含めて全体を考えていく必要があろうかと思っております。以上でございます。

○議長（松原 成利君） 森貴美子議員。

○議員（3番 森 貴美子君） 乗合タクシーなどのドライバーは、自動車学校で交通空白地有償運送運転者講習を受けますが、例えば智頭町では、講習費を全額負担しております。費用はお一人1万6,500円です。将来的に三朝町でもそういったドライバーを育成するというので、講習費に補助金を出すことは大事かと思っておりますが、町長のお考えをお聞かせください。

○議長（松原 成利君） 松浦町長。

○町長（松浦 弘幸君） そういうことになれば、やはりそういった育成のための支援という対策というのは必要だというふうに思っておりますので、想定として、そういうふうな支援をすることになろうかと思っております。

○議長（松原 成利君） 森議員。

○議員（3番 森 貴美子君） 最後に、毎月配られます「くらら」11号です。田舎暮らしでちょっと不安になる瞬間という読者コーナーがありますが、10人中半分以上の方が車の免許を返納した際の交通手段に不安を感じるとコメントしています。現在、交通手段に不便を感じていらっしゃる高齢者の方、将来に不安を感じていらっしゃる若者の皆さんへ、町長からのお言葉をいただいて、私の質問を終わりにしたいと思います。お願いします。

○議長（松原 成利君） 松浦町長。

○町長（松浦 弘幸君） この前の選挙のときに、住民の皆さんのところにお伺いをしたときに、そういったような御意見を頂戴をした方もあります。昔から、私は、公共交通、職員の時にも担当をしてきておりまして、よく思うんですけど、今思うのは、公共交通は、いわゆる自助・公助・共助をトータルで考えていく施策だなというふうには思っております。人ごとだと思わずに、そして利用される方も、どうしたらそれを利用できるか、そして、若い皆さんも、できれば、何

といますか、十分に例えて言えば、病院に、自分のところだけでも、通院されるときに、もし時間があれば送り迎えをしていただく。一緒には住んでおられない方が多いんですけど、そういうことでも、空いてるときにはそういう家族の中での手助けだとか、いろんな方を組み合わせながらやっていく必要があるというふうに思っておりますので、広く御意見が頂戴できて、そういったものを今後の公共交通の施策として生かしていきたいと思えます。

○議長（松原 成利君） 以上で森貴美子議員の交通難民の高齢者に送迎サポートをの一般質問を終わります。

○議長（松原 成利君） しばらく休憩いたします。再開を11時10分といたします。

午前11時00分休憩

午前11時08分再開

○議長（松原 成利君） おそろいですので、再開いたします。

次に、6番、吉村美穂子議員の交通弱者支援についての一般質問を許します。

吉村美穂子議員。

○議員（6番 吉村美穂子君） 交通弱者支援について、町長に質問いたします。

三朝町では、現在65歳以上の高齢化率が40%を超え、高齢化が早いペースで進んでいる中、日常生活に必要な移動手段が十分に確保できない、いわゆる交通弱者、交通難民の問題が深刻化しています。

本町は、山間地域が多く、集落が点在化しているため、バスの運行が難しい細い道路が多いという典型的な過疎地の条件を抱えています。買物、通院、行政手続、地域活動への参加など、交通は町民の生活の質に直結する問題です。生活の基盤である移動が途絶えることは、その人の生活、健康、地域の活力低下につながります。

現在実施している本町における交通弱者支援事業は、令和3年から運行されている町営バスみさきサンサンバス、高齢者向けのタクシー助成制度、「架け橋」という高齢者向けのバス定期券への助成、社会福祉協議会による外出支援サービスなどがあります。医療アクセスを意識した運行設計など、現在の支援は、最低限の移動の確保ができ、低料金で利用しやすくなっています。デマンド方式を導入し、全国標準を満たしていると言えます。しかし、一方、バスの運行本数が少なく、買物や娯楽に使うには不便であること、デマンド交通は、電話番号での予約を負担に思う高齢者がいること、玄関から最寄りのバス停までの距離が遠いこと、タクシー助成は回数制限

があり、通院回数が多い人には足りないなど、制度が多いため、どれを使えばいいかわからないという声を聞きます。

財政的制約、地理的制約のある中、三朝町地域公共交通協議会でも交通弱者対策、生活交通に対して協議されています。

今後、交通弱者対策や公共交通再編に当たり、町民、特に高齢者や日常の移動に課題を持つ方々の声を把握することが重要です。そこで、町民満足度調査を実施してはいかがでしょうか。アンケート調査やヒアリングを通して、住民が必要とする移動ニーズ、利用時間帯、目的地、移動手段の希望など、町民の声を収集することで改善施策の優先順位が明確化されます。実効性のある交通弱者対策ができると思いますが、町長の考えをお伺いいたします。

また、本町における交通弱者対策として、要望があれば最適ルートで配車するA I オンデマンド交通（コンピューターの人工知能を活用し、利用者の予約に対しリアルタイムに最適配車を行うシステム）の導入を検討してはいかがでしょうか。経済的な面から見ても大変効果が高い施策です。固定ダイヤによる路線バスは、山間部が多く人口が分散している本町の地理条件と高齢化による利用者の偏りにより、いわゆる空気を運ぶ状態が多く発生しています。費用対効果が低いという課題を抱えています。

一方、全国の小規模自治体で導入が進むA I オンデマンド交通は、必要なときに必要な場所へ走ることで、運行の効率が大きく向上し、1人当たりの公費負担を抑えることが可能です。オンデマンド交通は、利用者の利便性が高く、高齢者の外出機会を増やす効果が期待できます。利用者が増えることで、結果として1人当たりの運行コストも下がり、費用対効果が高い公共交通として持続可能な仕組みです。単なる利便性向上だけでなく、本町の財政負担を最小限に抑えることができるA I オンデマンド交通導入に対して、町長の考えをお伺いいたします。

三朝町の未来を支えるのは、どこに住んでも移動できる安心です。交通は、命と暮らしの入り口です。町民一人一人が、移動の不安なく生活できるよう、実態調査とともに施策の強化を求めます。

○議長（松原 成利君） 答弁、松浦町長。

○町長（松浦 弘幸君） 吉村議員の交通弱者支援についての御質問にお答えをいたします。

交通弱者対策や公共交通における課題把握につなげるため、町民満足度調査を実施し、公共交通の改善につなげてはどうかとの御質問をいただきました。

議員も言われましたけど、三朝町の公共交通は、路線バス、そして、みさきサンサンバスがあります。高齢者の支援制度としては、タクシーの助成制度、また、バスの定期券「架け橋」への

助成支援があります。これらは移動手手段の確保として、皆さんから一定の御理解をいただいているというふうに認識をしております。このうち町営のみさきサンサンバスは、路線バスの維持が難しい地域の交通手段の確保ということから、穴鴨、小河内、徳本線の3ルートの実行を行っておりまして、利用状況につきましては路線バスと同じですが、学生さんとか高齢者の方が多く、全体では3,600から4,300人程度で推移をしております。第11次の町の総合計画にも盛り込んでいますが、公共交通の確保は、町民の生活を支える重要な施策であります。現実の問題として、日常生活の中での交通手段というのは、依然自家用車に頼る部分が大いわけですが、人口が減少して高齢化も進んでいく、公共交通の在り方も日々変化をしております。誰でも使える、乗っていただく公共交通、生活交通の確保には取り組んでいくべきと考えております。

その中で、公共交通の改善につなげるべく、町民を対象とした満足度調査の実施を提案をいただきました。サンサンバスの運行から来年で5年が経過をすることになります。現状を把握をするということも含めて、将来のダイヤの見直し等も含めて、そういった満足度やニーズの調査は必要だというふうに思っております。そういうことを踏まえながら、第12次の町の総合計画にも、公共交通計画については十分に反映をさせていきたいというふうに思っております。

また、議員からは、交通弱者対策かつ財政負担を抑制するためのAIオンデマンド交通の導入についても御提案をいただきました。

AIのオンデマンド交通の仕組みについては、先ほど森議員の御質問にも触れましたので多くは触れませんが、固定ルートのバスとは異なって、予約に応じて適切なルートを設定することで、利用者の利便性の向上だとか、空車運行が減ると、環境負荷の減少といったメリットがあるということは御質問のとおりです。

一方で、それをどう安定的に運用していくか、あるいは路線バスやサンサンバスといった既存の交通体系との適応、課題は多くの面で研究すべき点があるというふうに思っております。いずれにしても、前段の御質問にお答えをしました満足度調査だとか、ニーズ調査の実施、課題の研究には、本当に大事なことだというふうに思っておりますので、その施策に反映をさせてまいりたいと思います。

大半の公共交通の課題だとか、町の現状だとか、そういった面については、先ほどの森議員の中で私の考え方を述べさせていただきましたので、その部分については、今の質問にはちょっとお話をしたということで述べませんが、そういうことも御理解をいただきたいというふうに思います。以上です。

○議長（松原 成利君） 吉村議員。

○議員（6番 吉村美穂子君） 現状を把握するという意味におきましては、アンケートも必要であろう、声を聞くことが重要であるという御答弁をいただきました。対象年齢を幅広く声を聞かせるということも大切だと思うんですけども、全町民に対しての調査をするおつもりなのか、例えば特定の地域だとか、年齢層に限って調査するべきかなと思っていらっしゃるのか、その辺を聞かせてください。

○議長（松原 成利君） 松浦町長。

○町長（松浦 弘幸君） 今具体的に細かくは考えてはおりませんが、今の現状の中で、公共交通の利用者が多いというのは、小・中学生、通学をする子供たちと高齢者の方が大半でございますし、徳本線については医療機関の利用ということもありますので、年代ごとに区分をしながら、地域ごとにも区分をしながらということになろうかというふうに思います。そして、意向調査ということにはならないかも分かりませんが、もう一つ、三朝町の場合は、三朝温泉、三徳山、倉吉駅を結ぶ観光路線ということがありますので、それが大きく地域交通の組立てとも影響してくるということはあるので、そちらの利用状況調査、ダイヤ構成、利便性も含めて、やはりする必要はあろうかなと思います。

○議長（松原 成利君） 吉村議員。

○議員（6番 吉村美穂子君） 今、御答弁いただきましたけれども、町民だけではなくて、三徳山など観光ルートも含めてとなると、なかなか住民の声全部拾うというのは難しいかなという部分もあるんですけども、アンケート結果によっては、今後、停留所の場所を新設するとか、先ほど御答弁いただきましたけど、バスの時間帯を検討するとか、そのアンケート結果によって、そういうふうなことを改善していくとか、新しくしていくというお考えはあるのでしょうか。

○議長（松原 成利君） 松浦町長。

○町長（松浦 弘幸君） 路線バスについては、これまでも乗降調査とかしながら、実際にバスに乗って聴き取りをしながらということもやってまいっております。町営バスとかについては、ダイヤ改正は、1台のバスで動かすので、そこに難しさはあるので、全てのいろんな御意見の中で調整は取る必要があろうかと思っておりますので、必ずしも皆さんに満足していただけるダイヤをつくるというのはケース・バイ・ケースだと思って、これまでもいろんな御意見を頂戴をしながら改正をしてきております。ただ、路線バスについては、日ノ丸バスをはじめ、中部の公共交通協議会という全体のダイヤの構成というものもあるので、そこはさっき言いましたように、乗降調査だ

とか、JRとの接続だとか、通勤・通学含めて、そういうことになろうかと思しますので、全てアンケート調査をベースにしてというのはなかなか難しいところはあるかも分かりません。

○議長（松原 成利君） 吉村議員。

○議員（6番 吉村美穂子君） 私が言ってるのは、デマンド交通、サンサンバスとかの、例えば今、ほとんど利用のない停留所とかがあるけれども、将来の人口構成とか見たときに、その停留所は置いておこうというふうな考えで残してると思うんですけども、そういうことではなくて、例えば1人では難しいですけど、何人か乗りたい人がいるので、この場所に新しい停留所を希望したいというふうな声が上がったときはどうなんでしょうか。

○議長（松原 成利君） 松浦町長。

○町長（松浦 弘幸君） 町営バスはそれは可能だというふうに思ってます。逆に、発足したときに、デマンドという形にはなりますけど、かなりバス停をつくってきているので、そちらも利用のないところは見直しをしていくということも、ある面では必要なことかなというふうには思っております。

○議長（松原 成利君） 吉村議員。

○議員（6番 吉村美穂子君） この質問をさせていただいたのは、町長も昨日の提案説明の所信でもおっしゃっておられましたけれども、健康であることが最も重要で、町民の健康が町の基本であるとおっしゃっておられました。今後、町民のための日帰り入浴施設ができるにおいて、ちょっと中山間部の方のお声を聞くと、せっかくそういういい温泉施設ができるけども、自分たちはどうやって行くんだろうとか、あと、ほとんどのイベントとかが役場周辺の文化ホール周辺なので、行きたいけれどもいい時間帯に来てもらえないとか、そういう声を聞きました。そういう温泉施設ができるにおいて、町民全ての人たちにその恩恵をと思うと、やはり温泉に行きたいときに行くという意味においては、例えば施設ができたなら、はい、この谷の人、ここの人たちは一緒に行きましょうねという、その声も町民の中からそういう心配の声をお聞きしたので、ちょっと話が別になるかもしれませんが、その辺り、町長はどのようにお考えでしょうか。

○議長（松原 成利君） 松浦町長。

○町長（松浦 弘幸君） それは、一人一人から考えたら大変望ましい姿だとは思いますが、仮の話で、温泉施設ができたときに、そういうアクセスはどうにするかというのは、当然並行して考えていく必要があって、それは路線バスのダイヤだとかサンサンバスのダイヤが可能かという、いろんな要素がありますので、一人一人がそういうふうに満足するというのはなかなか難しいと。さっきも言いましたように、私が、自助・共助・公助の集合体だということを、やっぱりそうい

う考えで、利用したいところに利用するような仕組みをお互いつくっていく。当然、行政も考えるですけど、それは全てを網羅する、カバーするというのは難しいところがあるので、いろんな工夫をしていく。そして自分たちができることは、そういう形で逆に合わせていただくということもあろうかと思いますので、大きな課題なので、そういうのを議論をしていくのは大事だというふうに思っております。

○議長（松原 成利君） 吉村議員。

○議員（6番 吉村美穂子君） あと、A I オンデマンドにするにおいては、財政的なことも非常に課題、A I をすることに関しては財政的な問題もあるということをおっしゃってました。智頭町の場合は、トータルで、県の補助も含めて4,350万円でA I 乗合タクシーというのをされて、運行収入が700万ということで、令和4年のすぎっ子バスの2倍以上の運行収入があったと。そこに至るまでには大変な啓蒙だとか、いろんなことがあったと思うんです。今、三朝町の令和6年度におきましては、バス運行対策補助金としては4,479万円ということを、国、県、町単独も含めてお金が出されてます。サンサンバスにおいては2,305万円の町有償運行ということでなされてるんですけども、さっき町長がおっしゃいました令和5年10月から令和6年9月までは3,891人の利用で、運賃が12万9,800円ということになっているんですけども、この利用人数と運賃、もちろん三朝の場合は100円、200円なので、智頭町の500円とは全然違うんですけども、この費用対効果について町長はどのようにお考えでしょうか。

○議長（松原 成利君） 松浦町長。

○町長（松浦 弘幸君） 非常に費用対効果難しいと思います。もう少し行政負担を減そうかと思ったら、運賃を、言われるように100円を500円にするとかってあると思いますけど、それは町の中での施策の考えなので、これはある面でサンサンバスの運行の体系は妥当な線かなと私は思ってます。

バスの補助金自体も、路線バスの運行については国からの特別交付税が7割から8割来るので、それが一番大きな財源で、それがなかったらどこもやっておられんと思います。路線バス以外になると、町営バスもそうですけど、特別交付税の措置はそれだけでもございませんので、だんだんだんだん町負担が増えてくるんです。A I のオンデマンドも、ちょっと調べてないんで分かりませんが、感覚的に、初期投資は結構どんなことに関しても国が見てくれるんですけど、今度、動き出したときからのランニングだとかになると、システム改修だとかになると、もう全く見てくれないということもあったり、智頭の場合も、端末が置いてあって1,500人ぐらい登録者があって、やはりその登録者があるという、そこに住民が乗るよという、利用するよという

意思表示があって運営できるもんだと思いますし、地域の協議会からドライバーが出て、いわゆる有償ボランティアというか、自分の車を出して運転をするという形が出来上がっているというのは、やはりこれは智頭町ならではの、これまでのまちづくりの経過でできてるもんだと思います。そういうふうな形でオンデマンドでも専用電話があるけど、別にやはりコールセンターは設けてあるんですよね、電話で受けてという形で、配車をするという形がなってくるので、非常に難しい。三朝町に置き換えると、一部は利用できてもなかなか難しいなという感じもあります。さっきも言いましたように智頭町の場合は、智頭駅が全ての入り口、窓口になっておるので、町内のAIデマンドの交通も町内完結に全てなって、そこから鳥取市とか行くときにはJRか路線バスを使っていくという形になって、そこでシステムができてきてるので、なかなかそういう地域の状況をうまく生かした交通体系だと思います。

何だったかいな、言っとったら分からんようになりました。そういうことも踏まえて、研究していく必要があろうかなと思ってます。

○議長（松原 成利君） 吉村議員。

○議員（6番 吉村美穂子君） 本当にそのとおりで、智頭町のものがそっくりそのまま三朝に適応するかというのは、私も本当にこれはちょっと難しい部分もたくさんあると思うんですけども、でも、ただ、利用する人がいるだろうか、有償運転手いるだろうかって言っちゃうと、そこから始まるじゃないですか。それよりも、智頭町でも最初は運転手が少なかったけれどもっていいながら、運転手がたくさん、結局コールセンターも含めて、運転手も含めて40人近い雇用ができたのと、唯一、ただ、週3時間ぐらいで10万円の給料ではなくて、住民が自家用車を持ち込む、ちょっとこれはいい点だなと思ったんですけども、住民が運行体制することによって地域への貢献度をしてるっていう、そういう意識とやりがい、生きがいづくり、それと久しぶりにお客さんに会うことを通して、やあ、元気だったかとか、今どうしてるという、そういうコミュニケーションの場も生まれるという意味においては、今後考えていくことも大切じゃないかなと思います。

しかし、急には無理なので、さっき町長がおっしゃってましたけれども、実証運行、パイロット事業ということで、例えばある地域をモデルとして一度やってみる、どのぐらいの経費がかかるのかとか、そういうことをとにかくやってみるという考えは、今、町長の中にそのようなお考えあるんでしょうか。というのは、本当にサンサンバスの停留所まで歩いていくのがちょっとやっぱりえらいと、高齢になってこられて。せめて本当に近くまで来てくれたらいいなという声もこのたび聞かせてもらったので、その辺は町長どのお考えでしょうか。

○議長（松原 成利君） 松浦町長。

○町長（松浦 弘幸君） 地域の中で実証運行を調査事業のような形でというふうに言われました。

それもすごく大事なことだというふうに思っておりますが、皆さん御存じかどうか分かりませんが、以前、町内のある地域の中で、そういう地域の中で過疎地有償運送が取り組めないかというのをやられたことがあって、私は、当時担当だったので関わってましたですけど、いろんな、言われるようにアンケートを取って、それで、利用する対象者って分かるんですよね、もう地域の中だから。そこの対象者の意見も聞いて、それで路線も決めて、ある程度素案をつくって、準備を進められておって、最終的にできなかったのは、ドライバーになる住民の人がいざというときに確保できなかったと。それまでは言われたように、そういう課題も整理しながら、何とかせないけんという気持ちで、私たちもそれに対しては、県も含めて支援をしていこうということで一緒になってやっとなんですけど、最終的に、議員が言われたことと反対の思いというのが地域の中で生まれてきたのは事実だったので、仮にこれからまたそういうことを提案をしていくというのは大事だとは思っていますので、ただ、そうしたときに、やはり地域をよくするためにみんなが頑張っていくんだと。ただ、一方では、何かのことで地域が逆のほうにいくという不安もあったりする場合もあるので、そこらはよく、そのときには他の事例が少なかったかも分からないので、情報としてどうだったかというのはありますけど、そういうことも含めてやっぱりみんなが十分に話をしながら、実証運行をしていくというのは大事なことだと思いますし、言われたように、智頭の例でもいい事例が今はあるので、そういったことでは少し環境が違うのかなというふうに思っておりますので、そういったことも含めて、地域の皆さんに対しての課題として、こちらのほうから投げかけていくということもしてみたいなと思っております。

○議長（松原 成利君） 吉村議員。

○議員（6番 吉村美穂子君） 本当に町長のお考えを聞いて、ちょっと希望を感じました。

最後に、昨日、町長が提案説明の所信でおっしゃってた健康の重要性とともに、町の活力向上という意味においては、町民一人一人の活動の輪が広がることで発展する、私も本当にそのように思います。その中で、人が動けば町が動くを信念として、町政を推進してこられ、成果を生んでこられたと感じておられるということなんですけども、この人が動けば町が動くということなんですけど、人が動くためには、私が今回提案した交通弱者の問題というのも非常に課題になってくると思うんです。町長がおっしゃる、人が動けば町が動くという、その具体的な施策としての内容を最後に聞かせていただいて、それとともに交通弱者に対しても、この人が動けばということを含めてお聞かせください。

○議長（松原 成利君） 松浦町長。

○町長（松浦 弘幸君） それについては物すごく幅広いことになってしまうので、あえて絞って言えば、吉村議員が言われたようなことを実行していくというのが人が動くという一つだと思います。

○議員（6番 吉村美穂子君） 以上で私の質問を終わります。

○議長（松原 成利君） 以上で吉村美穂子議員の交通弱者支援についての一般質問を終わります。

.....

○議長（松原 成利君） 微妙な時間ですが、しばらく休憩をいたします。再開を13時15分といたします。

午前11時39分休憩

.....

午後 1時11分再開

○議長（松原 成利君） 少し早いですが、おそろいですので、再開いたします。

次に、4番、小椋泰志議員の人口減少克服への総合戦略を問うの一般質問を許します。

小椋泰志議員。

○議員（4番 小椋 泰志君） 人口減少克服への総合戦略を問うということで、町長のほうに質問をいたします。

町長は、今回の町長選挙において、三朝町の人、物、文化を未来につなぎ、多くの人から選ばれる町とするとの基本姿勢を示された上で、全世代が健康なまち、地域と人づくりのまち、産業が成長するまち、安心して暮らせるまちを目指すと、抱負を選挙公報に上げられました。これらはいずれも本町の将来にとって重要な方向性であり、私も大いに期待するものであります。

一方、こうしたビジョンを実現するためには、前提となる人口規模の維持が不可欠であり、人口減少対策こそ町政全体を貫く最重要課題であります。本町は、人口約5,600人、年間100人以上の減少が続いており、高齢化率も上昇しています。特に山間集落では、担い手不足による農地の荒廃、交通手段の不足、空き家の増加など、地域の存続に直結する課題が顕在化しています。人口減少が進めば、行財政運営や福祉、教育、産業の基盤が弱体化することは避けられません。まさに、人口減少は単一の施策では解決できない複合課題であり、住まい、働く場、教育、健康といった分野を相互に関連づけながら、長期的に取り組む必要があります。

こうした状況に対応するため、子育て支援、移住、定住促進、若者の転出抑制、働く場の確保、教育の魅力向上、地域交通の再設計、空き家対策など、多様な施策を総合的に進めていくことが

求められます。そこで、3点ほど町長に質問いたします。

まず、1点目は、人口減少対策の取組体制の強化についてです。国の地方創生会議の資料にも示されているとおり、人口対策には庁内横断の組織体制が欠かせません。移住定住支援、雇用、教育、子育て支援などを一体的に扱う人口戦略推進チーム（仮称）を設置し、若者や子育て世帯も参画できる会議体として運営することが必要と考えますが、町長の見解を伺います。

2点目は、温泉を活用した健康づくり事業についてです。本町では、温泉活用プログラムや新たな温泉入浴施設の準備が進んでいますが、健康になったと実感できる取組の成果を示す評価指標の設定が必要ではないでしょうか。国保、介護保険データによる疾病構造の変化、施設利用者の事前・事後測定、大学との共同研究など、多面的な検証手法を導入することで、効果の可視化や住民の健康意識の向上が期待できます。

また、温泉と健康を軸とした本町ならではの取組は、町の魅力を高め、健康で選ばれる町としてのブランド形成にもつながります。健康的な環境で暮らしたいという移住者のニーズに応えることは、関係人口の拡大や定住促進にも寄与し、人口減少対策としても大きな効果を持つものです。こうした観点から、温泉を活用した健康づくり事業を将来を見据えた町の戦略施策として位置づけることについて、町長の見解を伺います。

3点目は、空き家対策と住宅確保の強化についてです。これまで本町では、改修補助制度、地域おこし協力隊による移住相談、空き家バンクの運用などが進められてきました。しかし、人口減少と高齢化が急速に進む現状を踏まえると、移住希望者が住みたいときに住める仕組みを整える必要があります。住宅情報の一元化、空き家の事前点検、お試し住宅の拡充など、住まい探しから入居までの支援体制を強化するとともに、所有者への働きかけや危険家屋対策、民間事業者との連携など、より実効性のある取組を進めることが求められます。空き家対策を地域の持続性を守る上で重要な政策としてさらに強化すべきと考えますが、町長の見解を伺います。

○議長（松原 成利君） 答弁、松浦町長。

○町長（松浦 弘幸君） 小椋議員の人口減少克服への総合戦略を問うの御質問にお答えをいたします。

初めに、議員からは、人口減少の取組体制の強化策として、移住定住、雇用、教育、子育て支援などを一体的に扱う人口戦略推進チーム（仮称）の設置について御提案をいただきました。

人口減少の問題は、これまでも本町の将来に関わる最重要課題として考えております。子育て支援、産業振興、住宅、移住定住、そして地域交通など、多様な分野の施策を総合的に、かつ長期的に進める必要がございます。現在、本町では人口減少対策の基本指針となる第3期の三朝町

まち・ひと・しごと創生総合戦略の策定を進めております。これからパブリックコメントを経て、令和7年度中の策定を予定をしております。この中でより効果的な推進体制の在り方も検討することとしております。

御提案をいただきました組織の体制については、チームをつくって運営するというのは、これまでも何個かやりましたが、やはりうちの職員規模で課が1つの、事務スペースが1つのところであって近い関係にあるところは、あまりちょっと機能しにくいんじゃないかなと。これまでもそれらしきことを主管課中心になって、それぞれの職員から意見募集をしたり、投げかけてきてはおりますけど、どうしてもやはりちょっとうまく、なかなか難しいなという考えはありますけど、体制については御意見を参考にさせていただきたいというふうに思います。

次に、現在取組を進めている温泉を活用した健康まちづくり事業については、成果を示す評価指標の設定が必要ではないか。また、温泉、健康を軸とした取組は、町の戦略施策として位置づけるべきではないかとの御質問をいただきました。

基本的には私も同じ考えでございます。11次の総合計画では、計画の中で生活習慣の改善や健康づくりを推進する手法の一つとして、三朝温泉病院や岡山大学と連携をして、温泉と健康の取組を進めることで、健康寿命の延伸に取り組むというふうなことで取り組んできております。今回の温泉を活用した健康まちづくりの取組は、令和5年度に策定をしました基本構想を具現化をしていく予防、健康、医療の分野を切れ目のない仕組みをつくっていく、そういったものを目指しております。

この柱のうち、御質問の趣旨は温泉と健康づくりの連携ではないかというふうに推察をしておりますが、取組の一つとして、健康運動アプリを開発をしまして、モニターとしての参加者を今募集をしております。日常生活から皆さんの健康を可視化するというふうな取組からスタートしていくようにしております。先般、NHK等でも取り上げていただきましたが、12日までの間に旧三朝小学校で申込みを受け付けているところでございます。一応300名というのを限度として、測定リングを装着をしていただいて、スマホのアプリと連動させる仕組みでございますが、町民はもとより、町内で勤務をされている方等に参加をしていただきたいというふうな思いでございます。ここから生まれるデータとしては、歩数、心拍、睡眠、活動量、ストレス指数等がありまして、そのデータをスマートフォンのアプリとひもづけることにしております。そういったことで日々の健康指標を、いつの状況でも確認をできて、それが数値として見えるということとは、非常に個人の健康意識の醸成につながってくるというふうに思っております。

成果指標の設定ですけど、取組の前後に体重や血圧、体組成等の計測による数値化と、それか

ら運動習慣、生活改善に関するアンケート、満足度調査等も連動させて、その成果を測って、健康への取組を実感をしていただくこととしておりますし、また、インセンティブとしては、温泉入浴券や電子マネー等に交換可能なポイントの付与で習慣化を促していきたいというふうに思います。これらのことは、これまで実施をしてまいりましたシンポジウムや今回の実証事業等と並行しながら、これから必要な拠点施設の整備を進めていくこととしています。

初めにも言いましたが、令和5年度に策定をした健康まちづくりの基本構想を具現化をして、三朝温泉病院、岡山大学、そして新たな温泉施設の運営会社等との産官学連携を体制として、予防、健康、医療の分野を切れ目のない仕組みで構築をすることで、健康で選ばれる町の戦略としてまちづくり計画、あるいは次期総合計画での位置づけとしていきたいと考えています。

最後に、空き家対策と住宅確保の強化についてでございます。空き家問題は、人口減少と高齢化が進む中でますます深刻化することが懸念をされております。危険家屋等の空き家に関しては、適正管理に関する条例や計画を策定しております。空き家の利活用に関しては、所有者、入居者がそれぞれ使える補助制度など体制整備を進めてきたところでございます。

今後ですが、本年11月に移住定住と空き家対策に特化した地域プロジェクトマネージャーを任用をいたしました。関係部署や外郭団体、不動産事業者等とも連携をしながら、総合的な支援体制を強化したところでございます。空き家の利活用は地域に新たな活力をもたらす可能性がある一方で、安全確保の観点からも解体が望ましい事例もございます。また、空き家対策は個人財産の管理に関わるものであります。行政としての介入には慎重な判断が求められることも多々あります。いずれにしましても、地域の持続性を守る観点から、住民生活の安心につながる実効性の高い取組を進めてまいります。最初に申し上げました策定予定の第3期総合計画の中にも位置づけをして、地域等と連携をしながら空き家対策を着実に推進してまいります。

小椋議員には、9月の議会でも空き家対策についても関連することで答弁をさせていただきました。重ねて申し上げますけど、空き家対策は、町、そして地域、集落のやはり共有する課題となってきました。お互いに、やはり認識を持って保全をするのか、活用対策を進めていくのか、あるいは危険なものはその危険を取り払うだとか、そういったことを進める必要があるというふうに思っておりますので、ある面で、これは日本全体の問題、国全体の問題、大きな問題となってきましたので、そこらの空き家対策に関わる国自体の政策等々も、私たちが町村会でいろいろと国に対して要望を出してきておりますけど、そういったところとも併せながら三朝町に合った空き家対策を実施をしてまいりたいと思います。

以上、答弁といたします。

○議長（松原 成利君） 小椋議員。

○議員（4番 小椋 泰志君） まず、人口減少対策の取組として、私は、人口戦略推進チームのようなものをつくってはどうかという提案をさせていただいて、今の話の中では、既存の今の体制の中で、いい意味で連携を持ちながらやっていきたいというような趣旨だったと思います。

この人口減少対策、私は今、毎年100人以上という言い方しましたけども、この前の資料では130人以上、毎年のようにずっと何年も減ってきている。本当に町の将来の危機という具合に捉えていいんじゃないかなと僕は思います。そういう意味で、国もそうなんですけれども、町としてももっと本気でこの人口減少対策、どうしたって減るしかないという思いは持ちながらも、いろんな手法を使ったりとか、もう一生懸命取り組んでやっていかないと、ますます減り具合というのは増えていくんじゃないかという、すごい危機感を持ってるんです。そこを町長のほうから危機感のところを、もうちょっと町長からその言葉を聞いてみたいんですけども。危機感をどういう具合に思っておられるのか。

○議長（松原 成利君） 松浦町長。

○町長（松浦 弘幸君） 危機感を持っていると言えばそれで終わりなんですけど、結局、今言われましたけど、コロナ前までは100人弱ぐらいで動いてきとったのが、コロナの3年を経て、120、130、140、毎年そういったことで変化があっけてます。それは三朝町だけではなくて、全体的な統計を見てもそういうふうになってまして、今の地方総合戦略の2.0の一つの考え方は、とにかく減る速度を緩めていくという、基本。前の地方創生は、どちらかというに移住定住をして増やしていくというか、そっちの考え方が強かったんですけど、今はどうにして減少を緩やかにするか。日本全体が将来的に半分ぐらいの人口になる中で、一部だけ地方のどっかの都市が増えることはあっても、全体的には人口が減るという考え方、そういう推計にあるわけですから、三朝町としてもどういうふうにして、今の社人研の人口推計をいかに緩めていくかということと、もう一つは、町に定住する人だけではなくて、その1日で考えたときに、町に来られる、いわゆる交流人口と言われる観光客の皆さん、それから、いわゆる町外の方で三朝町で働いてくださってる方も一つの人口の規模として考えていくということと、やはり、もう人口対策は総合的戦略だと思ってまして、皆さんもいろんなところで質問をさせていただいてますけど、じゃあ、雇用の場がどうにするだとか、教育の中でどういうふうに町で教育を受けたいだとか、新しい産業に関わりたいだとか、いろんな面、福祉の充実もあろうと思いますし、住みやすい暮らし、公共交通もそうですけど、もうそういう総合戦略の中で、全体的な中で、いわゆる底上げをしていくということが一つだと思いますし、もう一つは、町で育った人が将来都会へ出られて、

いろんな経験をされて、帰ってきていただく素地をきちっとつくるということだと思います。それは住む家が残っていることもあるし、そうでないこともあったり、やはり家族の中でそういう気持ちを親から子供に伝えるということも大事なことだと思いますので、こうだというふうにはなかなか言えませんが、そういうことを含めた戦略として、やはり長期的戦略としては持っていく必要があるというふうに思っています。

○議長（松原 成利君） 小椋議員。

○議員（4番 小椋 泰志君） 先ほどもあったように、人口減少対策は総合的な対策になるという捉え方で危機感も持っているということです。先ほど町長言われたんですけれども、この人口減少対策を進めるといって、いろんな各分野のいろんな事業、もちろんやっていくんですけども、まずぜひやってほしいのは、今、町長が言われたんですけど、三朝町の若者の定住ということです。人口ビジョンの人口の移動年齢を見ると、やはり高校生を卒業するとき、そのときに、いわゆる大学進学、または町外に出て就職、いろいろあるんでしょう。一旦人口がどんと落ちて、それで卒業した彼ら、彼女たちが今度は大学を卒業する云々のときに、また若干の転入が増えてくるというのもあるんですけれども、人が生まれる、死ぬという部分はなかなかすぐに効果が出るもんじゃないけれども、社会増、社会減という部分での調整というのは可能だと思うんですね。そこで一番やっぱり力を入れなきゃいけないのは、今言った若者の、その定住をどうするかというところだと思う、今さっき町長が言われたとおりなんですけれども。

いつも思うのは、三朝町はすごく教育に力を入れていると思います。これは伝統的だと思います。町の姿勢として、ずっと教育というものに力を入れて、生まれたときからそれこそ高校生ままでとは言わんか、中学校までは本当に一生懸命、いい意味での三朝町のよさをいっぱい詰め込んでいい子供たちが育っていくんですね。そういった子供たちが、いわゆる高校でちょっと離れてしまって、それで、高校から今度、大学でもいいんですけども、社会人になったときに、その子供たちがもう羽ばたいていってしまって、結局はこっちに居着かなくなってしまうっていうのが今の三朝町の現状じゃないかなと思います。すごい寂しい気がします。これだけ手塩にかけて育てた子供たちが、全員残れとは言わないけれども、せめて、そういう思いを持って帰ってこれる体制を町としてはつくらないと、すごくもったいないという思いがあります。

ですので、これからのまず真っ先に取り組まなきゃいけないのは、この若者世代の定住と子育て世帯の定住をどうしていくのかということじゃないかなと思うので、これから計画をいろいろ練られたりとかするとき、ぜひ考えてほしいなと思います。

そういったときに当たって、私が今言った推進チームどうかっていった中には、いわゆる役場

の職員の関係者だけではなくて、先ほど言った若い人たちを中心にした、高校生のグループでもいいし、子育て世代でもいいし、20代でもいい、まだ独身のね、人たちも。そういう人たちが、何ていうの、これからの私たちにとって必要なものは何なのかというような、つくるような会議体というか、集まりというか、そういうのをしっかりとつくって、それを町政に生かせるような仕組みができないのかなと思うんですが、どうでしょう、町長、そんな考えはないでしょうか。

○議長（松原 成利君） 松浦町長。

○町長（松浦 弘幸君） 十分にそういう機会をつくっていくべきだと思うし、つくられるべきだと思います。一過性の、例えて言えば、総合計画をつくるので、ワークショップをするために集めるという手法ではなくて、それも大事なんですけど、そういう皆さんと話をふだんから話をするというのは、非常に正直な気持ちを言われるので、そういうことの積み重ねっていうのは有効だと思ってまして、やはりそれは、幾ら高校生をターゲットにしても、そのときだけの高校生ではなくって、当然に小学生から中学生、そして高校生になっていくわけですから、やはりそういう三朝町で育っていく中での、何ていうか、組織としてのネットワークではなくって、人と人としてのネットワークをつくって行って、その中で意見を聞いて、それが少人数であっても非常によく考えているよなって思うこともあるし、高校生もそういう積み重ねによって、自分たちが町内だけではなく、高校生活の中でもいろんな活動をしている子供たちがいますので、やはり大人が、うちの組織もそうですけど、ふだんからそういったつながりというのは、私は持つておくのも大事な事かなと。それはすぐすぐ、こうにせいって行って、できるわけではないですけど、そういう面を最近、ここ数年ちょっと気にかけているので、そういうところも大事にして、まずつながりをつくっていくというのが、次のことになるというふうに思います。

○議長（松原 成利君） 小椋議員。

○議員（4番 小椋 泰志君） つながりを持つような、何か集まりといいますか、そういったものをどんどんつくっていけば、多分、彼らから、こういうのがあったらいい、ああいうのがあったらいいという、特に働く場の確保だとか、そういったようなこともいろいろ出てくるんじゃないかなという具合に思います。ぜひ、これからまちづくりの総合戦略とか2年後の総合計画とか、そういったものの、何か生かせるようなものをちょっとぜひ考えてほしいなという具合に思います。

次に、人口減少対策につながる温泉を活用した健康づくり事業についてです。今、温泉活用健康プロジェクトということで、参加者を募集しているということで、私も早速申込みをさせていただきまして、こういったリングを見つけました。リングをつけたら健康になるわけじゃないんで

すけども、リングをつけると、いわゆる意識的なものとして、健康というものに何かいろいろな面で留意していかないけんという意識づけにはなるんだなという感じで、今おります。これから、こういったものを活用していくということで、岡大さんとか温泉病院とか、いろいろされるわけなんですけれども、このものに、いわゆる温泉をどう関連づけようとされているのか。ただの健康づくりじゃなくて、これに温泉を関連づけて健康をつくっていくんだという仕組みというか、考え方というところが、もうちょっとよく分からない部分があるんですね。なので、そこを温泉と健康、どういう具合にこういったものを活用しながら、どうやって関連づけようとされていこうという思いなのかというのをもうちょっと聞かせてください。

○議長（松原 成利君） 松浦町長。

○町長（松浦 弘幸君） これは私も正直、どうにいい関連づけられるか分かりません。いわゆる思いの中で、今、取り組んでいまして、一番、これまで弱いのはデータがないという、町のレベルとしてあんまりデータを、さっきの交通の関係もそうなんですけど、データを持っていないというのが、やはりこれからの課題だと思ってまして、ですから、健康を増進する取組をするときに、町としてどういうデータを持って進めていくか、それを町の人に説明しながら、じゃあ、だからこういうふうな次の段階で行くんだよということを、まず一つのきっかけになればなというふうに思っておりますし、どういうふうに温泉を活用して健康づくりを進めていくかというのは、やはり専門家をお願いをせないけんということがあるので、ですから、温泉病院のドクターやリハビリの先生だとか、岡山大学のドクターはいわゆる研究者でございますので、そういう皆さんにやってもらわないといけないと。その中で、町の考え方とそういう方向性を共有しながらプログラムをつくっていくということになると思います。

これまでは、三朝温泉のラドンの効果というのは80年前からの温泉研究所の頃から医療に対する全般的な積み重ねがあって、ただ、それもいろいろと個人差があるので、なぜここには有効だというのはなかなか出てなかったもので、できるだけそういう健康増進を進める中で、そういう今回のモニターの方をお願いをして、データを取って、まだ温泉施設がないのでそこまでは取れませんけど、まずは運動のデータから取って行って、そこで温泉施設ができたときに、その日常の入浴がどういうふうに健康に作用するかというふうな、先々のイメージとして私は捉えているので、そういう方向に、いろいろと皆さんと一緒に考えていければなというふうに思っています。

○議長（松原 成利君） 小椋議員。

○議員（4番 小椋 泰志君） データをいろいろと収集していくっていうのはすごく大事なこと

だと思いますし、さっき言われたんですが、これから造ろうとする入浴施設、それを活用して、今回やってる健康データ集めも含めて、あの施設を活用して温泉と健康の何らかのつながりというか、健康づくりを進めていく一つの拠点という考えで思っておられるということではないですかね。

○議長（松原 成利君） 松浦町長。

○町長（松浦 弘幸君） そのように考えてもらったらいいと思います。

○議長（松原 成利君） 小椋議員。

○議員（4番 小椋 泰志君） こういった取組というのは多分、全国であるのかなのか僕もよく分かりませんが、温泉と健康ってそれこそ大分前からいろいろ、温泉は健康にいいんじゃないかとか、そういったことを言われながら、なかなかそれを、何ていうか、具体的に実現できるところってイメージでしかもう聞いたことがない、実際に具体的にこうですって言われてることというのは全国的にもほとんど聞いたことがない。そのために三朝町が先陣を切って、いわゆる温泉と健康の三朝町のブランドになると思うんですね。だから、ぜひこのブランドを何とか確立して行って、それがやっぱり移住定住につながったりとか、町の町民にとっての自慢になってくるだとか、そういったものをぜひつくり上げてもらいたいという具合に思います。

次に、空き家対策と住宅確保の強化についてです。前回の一般質問でも同じ空き家対策ということで、主に危険家屋の解消というのが必要じゃないかということで話をさせていただきました。空き家がどんどん増えて行って、どこも空き家だらけになってしまってるっていうのが今の現状で、これも何とか、危険なものはもちろん危険として、活用できるものは活用どんどんしていくべきだということの取組をどんどんしていかなきゃいけない。前回までは地域おこし協力隊の方が頑張っておられて、今回、地域プロジェクトマネージャーとして同じ方がなられたということで、多分、これからの取組を期待はしているところなんですけれども、この地域おこし協力隊としての立場でやっとなんと、このプロジェクトマネージャーとしてやっとなんと取組っていうの、立場的な違いによって、何か取り組む、今までできなかったことができるようになるだとか、そういったことってあるんでしょうか。

○議長（松原 成利君） 松浦町長。

○町長（松浦 弘幸君） 今回のマネージャーを置いた部分については、町も初めてなことでございますし、どういう形を取っていくかというのはこれからしっかりと考えていかないといけないと思っておりますし、もう少しその中でどういう活動しながら、どういうところに絞っていくかだとか、その辺はちょっと今後の問題になろうかなというふうに思っております。

空き家の場合は、この前も中学生の未来を語る会のおきにちょっと言ったんですけど、空き家の所有者の事情というのもあるわけで、そこにはいろんな事情があるので、そこを整理していかないといけないという大きな根本的な問題があるので、その中で活用できる部分だとか、そういう部分を抜き出しをして対応していく。それから、もしかしたら、今日か昨日だかの新聞で、将来空き家になる方が、使っていただく人を事前に探しておくみたいなことありましたんですけど、それがどうかなという思いもあるんですけど、そういった面で、三朝町に合った多様な使い方とか、対応の仕方というのは、マネージャーを中心にして考えていくということになろうかなと思います。

○議長（松原 成利君） 小椋議員。

○議員（4番 小椋 泰志君） 分かりました。地域プロジェクトマネージャー、三朝町としても初めての立場の職といたしますか、ですので、やはり今まで以上に空き家の掘り起こしですね、まだ表面化してないけれども実際には空き家だよとか、そういったいろんな空き家の掘り起こし、それと、それが活用できるかどうかの確認とか、それで、実際に移住定住を目指している人たちと今まで以上にもっと親密に関わり合いを持ちながら、最終的に定住のところまでしっかりサポートしていける、そんなプロジェクトマネージャーとして、何かもう一步踏み込んだ立場でやっていただければありがたいという具合に考えます。

最後に、最初に体制の整備からしてかかる必要があるんじゃないかという言い方もしましたけれども、三朝町も限られた財源、それで人材的にも当然、限られた職員でこの大きな課題に向かっていかなきゃいけないというのはよく分かります。当然、日本全国そうだし、三朝町だけがそれに逆行して増えるなんていうことは考えてはいないけれども、立ち向かう姿勢をやっぱり示していかないといけない、町としてですね、いけないなという具合に思います。

最後に、そういう意味で、町の活力をやっぱり維持していくためにも、この人口減対策に対する町長の立ち向かう意思というか、思いを最後に聞いて終わりにしたいと思います。

○議長（松原 成利君） 松浦町長。

○町長（松浦 弘幸君） 改めて昨日の所信で申し上げたとおりでございますので、とにかくいろんなことに立ち向かっていきたいというふうに思っております。昨日の所信が私の選挙に当たる公約をベースにまとめたものですから、議員の皆さんもそれぞれに公約を持って議員に出られたわけで、やはりその地域の実態に合った提案というのを一緒になってやっていただくという、一番の肝になるのが空き家対策、人口対策かなというふうに思っておりますので、今後4年間、町がいい町になるように、お互いに一生懸命議論し合って進めていければなというふうに思います。

どうぞよろしく申し上げます。

○議員（4番 小椋 泰志君） 終わります。

○議長（松原 成利君） 以上で小椋泰志議員の人口減少克服への総合戦略を問うの一般質問を終わります。

○議長（松原 成利君） 次に、7番、山口博議員の松浦市政の3期目に期待することの一般質問を許します。

山口博議員。

○議員（7番 山口 博君） 松浦市政の3期目に期待するということで、松浦町長に伺います。松浦市政3期目のスタートに当たり、町長が選挙に際して選挙公報に掲げられた公約の中で、私が注目し、期待する点について伺うものであります。

町長は公約で4つの柱、1つ、全世代健康まちづくり、2番、地域と人づくりのまち、3、産業が成長するまち、4で、安心して暮らせるまちを設定しておられます。これらの柱は、三朝町が取り組み、充実しなければならない重要課題でもあり、町長のリーダーシップの下、実現に向けて取り組まれることを期待するものであります。

私が特に注目しています点の一つは、全世代健康まちづくりの中で、文化、芸術、健康、スポーツなどの楽しい集いの支援であります。若い人たちが口にするのは、三朝町には面白くて楽しいことや場所がないと聞きます。文化芸術活動の一端に携わる者として耳が痛い限りであります。多くの町民が参加できる楽しい集いやイベントの開催は、町を元気にするもので、極めて大切であります。イベントなどに対する支援は継続開催にするためには、1回限りの支援ではなく定着するまでの息の長い支援が必要と考えます。

次に、2番目の地域と人づくりの中で、私は、幼児からの外国語コミュニケーション力の強化に注目します。本町は他町より外国語教育に注力していることはすばらしいことと承知しております。中学生のフランス交流、台湾交流において、体験者が外国語向上の必要性を口にしていきます。学校外で外国語を使う機会がほとんどない我が町では、いかに習った英語を磨くかが問われるのではないのでしょうか。一つの方法として、町独自の各年齢期における英語スピーチコンテストの開催を提案するものであります。また、現在、図書館で行われています英語村の積極的利活用も英語力の向上に資するのではないかと考えます。新たな取組と既存の利活用を提案するものであります。外国人に英語で観光案内できるくらいの力をつけることを期待するものであります。

最後に、3番目の産業が成長するまちについてであります。若者が進学で町を離れ、卒業して

帰ってこないことは、町に若者を受け入れる産業がないことであります。ふるさとのよさを知りながら、就職先がないことで若者が帰ってこないことは大変残念でなりません。町内産業の起業を支援し成長させることは、若者が住みたくなるまちづくりに通ずることでもあります。一層の支援が、生業、なりわいの創出につながるものと期待します。

松浦町政3期目はスタートしたばかりであります、私が注目した点も含め、これらの公約を町長はどのように具現化し、町民の負託に応えようとしておられるのかお伺いします。

○議長（松原 成利君） 答弁、松浦町長。

○町長（松浦 弘幸君） 山口議員の松浦町政3期目に期待することの御質問にお答えをいたします。議員からは、このたびの選挙公約についての具体的な取組や考え方について御質問をいただきました。

最初に、全世代健康まちづくりについてでございます。社会の情勢やライフスタイルが変化をしていく中で、町民皆さんの健康な暮らしを維持をするために、温泉を活用した健康まちづくり事業を柱に健康増進に取り組んできております。議員からは、特に文化・芸術・スポーツ等の楽しい集いの支援についての御質問をいただきました。これまでも若い世代の方から、町に遊ぶ場所が少ないだとか、そういった声も聞いてきております。今年6月に策定をした三朝町こども公園構想計画に沿って、日帰り入浴施設の敷地内等にこども公園を整備することとしております。子供さんや若い世代の方が言われた楽しく遊ぶ場所がないとかには、こども公園に限ったことではないので、それはまだ幅広に捉えておりますが、今議会においては、昨日、中の島公園に大型遊具の整備を提案をしているところでございますので、これは引き続き、いろんな施設等とも連携をしながら環境整備を図ることとしております。

町民の皆さんが気軽に参加できるイベントの開催は、楽しい集いの場の創出ではありますが、やはりそれぞれに主催者側の体制、スタッフの問題、そして、経費的な問題、様々なことがあるかというふうに思います。イベントを増やしていくということもそうですし、今のイベントを少しブラッシュアップをするだとか、そういった手法もありますし、そういうことをやっておられるところもあるんじゃないかなというふうに思います。町としての支援についてですけど、それぞれに思っておられることがどうなのかなということをもまず情報共有をしながら、予算など、新たに取り組みたいこと、チャレンジしたいことを考えておられることでしたら、それが発展をしていくというふうなことでしたら、いろんな形で私たちも対応していくことがあろうかなというふうに思ってます。

次に、地域と人づくりについてでございますが、所信表明でも申し上げました町の情報発信の

強化と様々な形での連携とまちづくり活動の支援、そして、地域課題の解決に向けて協働して取り組んでいくということを進めてまいりたいと思います。

幼児からの外国語コミュニケーション力の強化として、児童生徒の英語スピーチコンテストや図書館で行われている英語村の取組についての御提案もいただきました。中学校では授業を原則英語で行っておられまして、コミュニケーション能力の向上を図っておられるとも聞いております。御提案のコンテストにつきましては、授業のカリキュラム等の関係もあろうかと思っておりますので、教育委員会のほうで、その実行性等については検討していただくようお願いをしたいと思っておりますし、図書館で行われている英語村についても、学習意欲を持ってやはりそういう英語に触れる機会を持っていただく、参加をしていただくというのは非常に大事な会だなというふうに思っておりますので、参加者の輪が広がっていく、それが皆さんにとって継続をしていく、そういったことで私たちの関わりがあるとするならば、それも併せて、教育委員会と一緒に考えてまいりたいというふうに思っております。

以前からも、幼児から小・中、英語教育、いわゆる英語でコミュニケーションを取るというのは非常に大切なことだというふうに思っております。それぞれの段階で、学ぶ過程も違うとは思いますが、まずそういったような自分でコミュニケーションを取る機会を得ること、話すこと、聞くこと、やはりそういったことを、学習は学習もあるわけですけど、そういった人材育成の面でも大事だというふうに考えております。

産業が成長するまちでは、観光・商工分野においては観光消費額の拡大や創業支援や企業立地促進に注力をしてまいりますし、それが地域経済の振興、そして、若い人を含んだ関係人口の拡充に努めていきたいと考えています。

3期目の町政運営に当たり掲げた公約は、将来にわたって安心して暮らせる町をつくるための重要な柱だというふうに思っております。町民の皆様の期待に応えられるよう、引き続き対話と現場主義を大切にして、自助・共助・公助の連携を深めて、まちづくり、子供たちが夢を描ける教育環境、そして、地域を支える産業の成長、そして、三朝町の文化とそこの中での交流が息づく町、これらを段階的かつ着実に進めていきたいと思っております。

以上、答弁といたします。

○議長（松原 成利君） 山口議員。

○議員（7番 山口 博君） 今回、町長の公約について質問したわけですが、公約は多岐にわたっておりますので、その一部を取り上げて質問するのはいかなものかという、時期尚早という気持ちもないわけではありませんけども、やはり公約の実現に向けて、若者が三朝に残

ってくれるようなことも含めまして、今回私以外にも河村議員や、それから伊藤議員とか、それから小椋議員等も若者の定住に向けてどうしたらいいのかっていうことがなされていたので、私もそういう点ではちょっと力を入れたわけですが、今回、町長が提案しておられます楽しい集いなどをしてっていうことを掲げておられますんで、ちょっと今、時期早いって言われるかも分かりませんが、どのようなことをイメージしてその辺のことを書かれたのか聞けますでしょうか。

○議長（松原 成利君） 松浦町長。

○町長（松浦 弘幸君） そんなに細かくイメージは持ってないんですけど、ただ感じとして、人が集まれば楽しくなるよと。皆さんが集まるというのは、楽しくなることがあって集まられることが大半ではないかなというふうに思っておりますので、いろんな、ジャンルは違っても、そういう思いをベースにして楽しむということが集うということで、まちづくりにつながればいいということでございます。

○議長（松原 成利君） 山口議員。

○議員（7番 山口 博君） 確かにいろいろのイベントをやることによって多くの人が集まり、やはり三朝は楽しいなと思ってもらえることになるのではないかなというふうに思って今回聞いてるわけですが、町内にもいろいろなイベントがあります。長く続いている、町が主催しておられますキュリー祭とか、芸能文化祭とかありますけども、だんだん参加者が少なくなってきてというのは非常に寂しい限りであって、やはりこれは、先ほど言葉もありましたけど、ブラッシュアップするイベントも必要ではないかなというふうに思います。

それから、さらには新たなことを取り組んでいきたいというふうに思っている人たちを支援する。それで、例えば現在ある補助制度だと“みささ”するなどにはありますけれども、これ1回限りみたいな形なので、やはり1回でなくて長期間にわたって持続した開催を期待するのであれば、2年、3年のやはり継続的な支援も必要ではないかなというふうなことで、今ある制度のいわゆる手直しみたいなことも含めてやっていただけたらなというふうに思っておるところでございます。一番、集まって楽しんでくれて、三朝に残ろうと思ってくれるのは、若者がやはり多いことにこしたことはないので、先ほどの皆さんの質問の中で若者のニーズ調査とか、そういうことはいろいろ出されておりましたので、そういう点ではぜひその辺の取組について検討していただきたいなというふうに思っております。

それから、次に私が取り上げました外国語のコミュニケーションの能力の力をつけるということで、これまで第11次総合計画ですと、中学卒業時には英語で観光案内ができるぐらいという

形が目標になっておりまして、これは35年という将来的な部分もありましたけども、やはり既に8年もたってる第11次総合計画ですから、その辺が現在、今言いました英語教育の問題も含めてですけども、総合計画が町長が策定されまして8年が経過して、あと2年で次のに移るわけですけども、この8年間の急な質問かも分かりませんが、進捗状況をどのように今捉えておられるのか、ちょっと予告はしておりませんでしたけど、その辺はどうでしょうか。

○議長（松原 成利君） 松浦町長。

○町長（松浦 弘幸君） 11次総合計画の後期対策に入っている中間点にもなります。現段階での評価はやってませんが、基本的には、個別事業においては新年度予算の編成のときにこれまでの総合計画をベースにして、予算を編成をしまいでありますので、その過程として検証しながらということが、全てではないですけど、そういうことになりますので、そういうことを踏まえながら新年度の予算をつくっていきたいと思います。

それから、中学生が目標として、英語で観光案内ができる程度というふうに、計画上でそういう期待を持って書いておりますけど、多分そういう機会に出会ったことは分かりませんが、その観光案内の程度が違いますけど、個々ではそういうのを自分で考えて、外国の方とお会いしたときに、対面、少人数の場で話をしようと思ったときに、多分そういう能力はついている人が多いんじゃないかなという気はしています。それは直接話をしたわけではないですけど、フランスと台湾に派遣をした子供たち、来てくれたときに、ホームステイをして関わった子供たちは、少なからずともそういうことで対話しているようなことをラマルーの方からお聞きをしておりますので、評価はなかなかしてませんが、頑張ってるんじゃないかなというふうには思っています。

○議長（松原 成利君） 山口議員。

○議員（7番 山口 博君） その辺の一助になるかどうか分かりませんが、評価する点において、スピーチコンテストみたいなこともやって、皆さんでいろいろ努力した結果が分かるようなことも、ある面やってみるのもいかなものかなというふうな思いで、今回このような提案をしたものでございます。

次に、若者が帰ってきたいけど受皿がないということは、やはりこれは大きな問題であろうと思います。皆さんがいろいろ提案されましたので、その辺と重なる部分ありますけども、特に温泉街なんかで店を閉めてるところなどがあつたりすると、やはり観光地のイメージもよくないですし、元気がないなという、見られちゃうのは残念ですけども、そういうところ、これまでいろいろ新規に店を開いたりされる人に支援等はありませんでしたが、この辺は積極的に、これからの町長の課題でもありますけども、そういう点を何か手広く受皿を設定するようなことをぜひ考えて

いただきたいなというふうに思うわけですが、空き家対策の部分も含めてですけども、いわゆる温泉街を含めての空き家対策というか利活用ですね、その辺をどのようにしたらいいのかなというのはちょっと疑問に思うところでもありますけども、町長は個別的にはどのように考えておられるでしょうか。

○議長（松原 成利君） 松浦町長。

○町長（松浦 弘幸君） 議員はそう言われますけど、私はよくなってきていると思いますよ。商店街が空き家が増えたときに商工会と一緒にリストアップをして、ここの建物は、本人の了解なしにですよ、どういうふうに活用できるとか、そういうベースをつくっていきながら、時間はかかってはおりますけど、一つ一つそういうところが店舗として埋まってきたり、地元の旅館さんが、新たにやめられた旅館さんを購入されて新たな旅館をつくったりだとか、そういう面では、確かに残っているところたくさんありますけど、そのときから比べるとやはり変わってきてるんじゃないかなというふうに思ってますし、また、そういうふうな流れもありますので、それは温泉街の空き家だけではなくて、この温泉街以外のこの近辺だとか、そういうところの空いた建物があったら、当然に店をされてもいいし、いろんな活動の場を使ってもらってもいいし、そういうこれから広がりをつくっていくことが大事だというふうに思ってます。

○議長（松原 成利君） 山口議員。

○議員（7番 山口 博君） 温泉街が中心ばかりじゃないですけども、やはり町が元気だなというふうなことは人が定住すること、それから、空き家なんかができるだけ少なくなって、三朝頑張ってるなということの姿勢を見せることが大事ではないかなというふうに思っております。

若者がどのような、これから帰ってくるときにはどういう条件を期待しているのかとか、それから、既にいる若者たちが今後三朝で暮らすためにはどういうことを期待してるのかということで、やはりこれはアンケートっていう、そういう手段を使って広いニーズをつかまえて、町の行政をこれから推進していただきたいなというふうに思っております。

最後に、町長に今回の公約の具現化って幅広いですけども、全体にどのような思いで取り組まれるのか、その決意を聞いて終わりたいと思います。

○議長（松原 成利君） 松浦町長。

○町長（松浦 弘幸君） 3期目の所信として思いを出させていただきましたけど、所信を表明することで、町の行政の一つの職員がこれからのそれぞれのセクションの指標となって、それに向かってどういうふうに対応できるか、全てができるわけではなかなかございませんけど、そうい

うことの思いもあって表明したわけですので、一生懸命頑張っていきたいというふうに思っています。

○議員（7番 山口 博君） 終わります。

○議長（松原 成利君） 以上で山口博議員の松浦町政の3期目に期待することの一般質問を終わります。

\_\_\_\_\_ . \_\_\_\_\_ . \_\_\_\_\_

○議長（松原 成利君） 以上で本日の日程は終了いたしました。

本日はこれにて散会いたします。

午後2時12分散会

\_\_\_\_\_